

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月4日
学校法人神明の杜 神明幼稚園

1. 本園の教育目標

「あそびこむ」を園のテーマとし、幼稚園での日々の「遊びと生活」を通じて幼児期の発達段階に相応しい経験を幼児に提供することによって、以下の6つの具体的目標を達成することを目指す。

1. 日々の生活と発達段階に相応しい活動を通じて、健康な心と身体を育てる。
2. 保育者との信頼関係を土台に周囲の仲間と関係を築き、集団の中で自分を発揮する力を育てる。
3. 日々の生活と遊びの中の多様な経験の積み重ねを土台に、自分で問題を解決する力の基礎を育てる。
4. 言葉で思いを伝え、他者の言葉を聞く意欲や態度を育てる。
5. 音楽や造形、劇遊びなどの多様な活動を通じて豊かな感性と創造力を育てる。
6. 神明さまに見守られて日々を過ごし、感謝する心を育てる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

1. ホッケー遊びの活動を通じて、ルールのある遊びを楽しむ、仲間と協働することを楽しむ、うまくいって楽しい・うなずいていなくて悔しいという思いを味わう、等の経験をする。
2. 作業療法士と協働し、特別な支援を必要とする幼児により適切な対応をする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

1. ホッケーあそび

評価項目	評価	取り組み状況
幼児が主体的で豊かな経験をすることができたか	A	「棒でボールを打つ」というわかりやすさがよかった。ホッケーという競技にとらわれず、年齢によりスティックを跳ぶなど様々に活動をアレンジして活動を行った。
個々の幼児の特性に応じた対応ができたか	B	ゲームの場面では、個々の理解の差により活動に集団での難しさがあった。
幼児の成長と課題を保護者と共有できたか	A	うんどうかいの年中の競技で「陣取りホッケー」を行い、わかりやすく保護者と共有することができた。

2. 作業療法士との協働

評価項目	評価	取り組み状況
幼児が主体的で豊かな経験をすることができたか	A	作業療法士の助言により、集団への参加が難しい幼児が劇遊びに道具係で参加するなどのアイデアが生まれた。
個々の幼児の特性に応じた対応ができたか	A	登園渋りの幼児の対応で、幼児の苦手とすることを抽出することができ、課題の解決につながった。
幼児の成長と課題を保護者と共有できたか	A+	作業療法士の助言を保護者に伝えるなど、保護者と課題を共有するうえで目覚ましい効果があった。

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	ホッケーあそびは、造形活動・劇遊びや音楽など表現活動などと並んで、幼児が集団で行う運動遊びとしてとても有効だった。作業療法士との協働は特別な支援を必要とする幼児の理解と集団への参加をうまく促すうえで保育者の助けになった。どちらも本園の特色ある活動の一つとして継続して取り組んでいきたい。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
1 運動遊びから造形活動や音楽活動にもホッケー遊びの経験を広げていく	ホッケー遊びの導入によって、集団での運動遊びの活動がとても充実したものになった。今後はその経験を生かして、造形活動や音楽活動の分野にも広げ、専門の講師を活用した継続的な活動を検討したい。

2	作業療法士との協働の質の向上	カンファレンスの方法を体系立てて、経験の浅い保育者もベテランと同等の質のカンファレンスが行えるようにしていきたい。
---	----------------	---

6. 学校関係者評価委員会の評価

5までの自己評価をもとに今年度重点的に取り組んだ2つの活動について、評議員からなる学校関係者評価委員会で評価を行い、以下の評価をいただいた。

- 「ホッケー遊び」については、昔は地域の公園や空き地で、幼いころから年長の子どもたちと交じてゴムまり野球やおにごっこなどの集団遊びをしたものだったが、そういう環境が失われた中で幼稚園でこうした活動を行うことはたいへん良いという評価をいただいた。
- 「作業療法士」との連携については、小学校以上で不登校が増えていることが大きな問題になっているが、そうしたことへの解決策にもなるのではないかという評価をいただいた。

以上